

時代の流れ、社会の変化を受けて

学校や地域の状況、社会の変化を踏まえて校則の見直しは繰り返し行われています。私が教員3年目に羽島の中学校で3年生の担任をしたのは、平成になってまだ間もない頃です。当時は県内の中学校の多くは男子の髪は丸坊主と決められていました。髪の毛を指で挟んではみ出るようだと言っていた指導がされていました。女子も肩までといったように長さが決められていたように思います。私の中学校時代もそうでしたので、そのことに何の違和感をもつこともなく、そういうものだと思っていました。私が担任する学級に大貴さんという男の子がいました。彼は頭脳明晰、運動神経抜群で仲間からの信頼も大変厚く、前期は級長を務めていました。当時私が顧問をしていた野球部のエースピッチャーでもありました。夏の中体連の市大会で、春に県大会を制覇した竹鼻中学校に完封で勝利した試合はいまだに鮮明に脳裏に焼き付いています。そんな彼は男子の髪型が丸坊主であることに疑問を抱き、「絶対に丸坊主はおかしい。長髪でも認められる学校にしたい。」と訴えてきたのです。彼は後期、「髪型の自由化」を公約に掲げ、生徒会長に立候補しました。その後、学級会、生徒議会、生徒総会などを通して、中学生らしい髪型について幾度も話し合いがもたれました。丸坊主が廃止されたのは翌年からのことでした。後輩に「丸坊主の廃止」という大きな置き土産ができたことを誇らしく思いながら、自分たちは坊主頭のままで卒業式を迎え、胸を張って学校を巣立っていきました。

あれから30年の歳月を経て、時代は髪型から制服の見直しという新たな波が訪れています。トランスジェンダーへの配慮、スカートをはくことへの抵抗感への配慮、冬の寒さ対策等、多様性の尊重や様々な価値観への対応に向け、昨年度から可児市の中学校全体

で見直しが行われてきました。保護者、地域、生徒、児童、学校職員と学校に関わる様々な方の意見を反映させながら、基本的な制服のデザインやシャツ、ネクタイ等も決定しました。本校では、現在は制服の着用に関わる約束の検討など、最終段階に入っています。

本校の生徒数は355名(10/14現在)です。最大1624名(昭和60年)の時代からすると5分の1ほどに減っています。自転車置き場にも余裕が出てきました。また、新たな団地の建設等により自転車通学者より徒歩通学者の方が、通学距離が長いということも起こっています。そこで来年度から学校近隣の地域を除いて、自転車通学を希望制にすることとしました。昨年度から通学路ごとの生徒数の把握、警察及び指導員の協力による校区内の通学路の安全点検、自転車通学者の通学状況の把握、より安全な通学路の選定等、検討を重ねてきました。条例の改正により10月1日からヘルメットの着用及び保険加入が義務付けられるなど、自転車事故の多発により自転車に関わる規制が強化されている現状はありますが、本校の生徒はルールを遵守し、安全に配慮して自転車に乗れる生徒ばかりであると信じています。なお、1月から試験的に希望者による自転車通学を開始しようと考えています。

何かを決めるということ、何かを変えるということには時間がかかるものです。それまでの歴史があるものほど、時間を要するものです。そのことが決められた経緯や背景を無視することはできないからです。校則の見直しについて引き続き進めて行くことを、生活委員長の鈴木冬華さんが公約として掲げていました。自分たちのために、自分たちに続く後輩のために、さらに居心地のよい西可児中学校を目指して改善を図ってほしいと心から願っています。もちろん今ある約束を守りながら。